

有効期間満了：2012年2月28日

案件名	2010年日本 APEC 横浜開催における会議場と周辺ホテルでの電力・ガス・地域熱供給・水道使用のカーボン・オフセット
申請者	横浜市
案件の概要	<p>2010年日本 APEC 横浜開催（以下、APEC 横浜開催）の期間中（2010年11月7日～14日）の会議場（パシフィコ横浜）と会議場周辺のホテルでの電力・ガス・地域熱供給（蒸気・冷水）・水道の使用に伴う CO2 排出量 616 t-CO2 を、クリーン開発メカニズム（CDM）プロジェクトにより発行された京都メカニズムクレジット（CER）を用いてカーボン・オフセットする。</p> <p>横浜市では、当該排出量をオフセットするためのクレジット調達については、横浜市民の地球温暖化への意識を高めることを目的に、横浜市オフィシャル・ウォーター「はまっ子どうし The Water」の販売、及び、横浜市内の小学生等による「環境絵日記」の応募と連携させて行った（1本又は1作品につき 1kg-CO2 のクレジット調達に貢献するとして広報）。</p> <p>「はまっ子どうし The Water」の対象期間（2010年7月～11月）の販売本数が約76万2千本であり、「環境絵日記」への2010年の応募作品数が約1万5千作品であったため、最終的に APEC 横浜開催での電力・ガス・地域熱供給（蒸気・冷水）・水道の使用に伴う CO2 排出量（616t-CO2）の100%以上をカバーする 777t-CO2 のオフセット量を設定した。</p>
認証区分・タイミング	I-2 会議・イベント開催オフセット オフセット予定認証
カーボン・オフセットの主体（帰属先）	横浜市オフィシャル・ウォーター「はまっ子どうし The Water」の購入者、及び、横浜市内の小学生等による「環境絵日記」の応募者
算定範囲	<p>オフセットの対象活動（バウンダリ）内の主要排出源の特定： APEC 横浜開催における温室効果ガス排出量のうち、開催地である横浜市内の会議場（パシフィコ横浜）と会議場周辺のホテルでのエネルギー使用に起因する温室効果ガス排出量をオフセットの対象活動（バウンダリ）とし、主要排出源を電力・ガス・地域熱供給（蒸気・冷水）・水道の使用に伴う CO2 排出量と特定した。</p> <p>算定範囲： APEC 横浜開催の期間中（2010年11月7～14日）の会議場（パシフィコ横浜）と会議場周辺のホテルでの電力・ガス・地域熱供給（蒸気・冷水）・水道の使用に伴う CO2 排出量</p>

有効期間満了：2012年2月28日

	※会議場周辺のホテル名については、今後の国際会議開催に関するセキュリティの都合上、非公表とする。
オフセット量 / 算定 排出量	オフセット量： 777 t-CO2 算定排出量： 616 t-CO2
クレジット種別	京都クレジット（種類： CER）
プロジェクト名	NorthWind Bangui 湾プロジェクト（国連 CDM 理事会登録番号：0453）
無効化日	（1）「はまっ子どうし The Water」の販売本数に応じたオフセット分 2011年2月22日 （2）「環境絵日記」の応募作品に応じたオフセット分 2011年1月27日
情報公開	<p>【カーボン・オフセットの仕組みの説明】 市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の構成員が、自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にその排出量を削減する努力を行ったうえで、削減が困難な部分の排出量について他の場所で実現した排出削減量等（これを「クレジット」といいます）を購入したり、他の場所で排出削減等を実施することをいう。</p> <p>【地球温暖化対策の喫緊性の説明】 地球の平均気温が1906年から2005年の100年間に0.74℃上昇しており、今後も、平均気温が上昇すると予測されている。これに伴い、海面水位の上昇や気象の変化など、生態系や人類の活動への悪影響が懸念されている。 地球温暖化の主要因と有力視されている温室効果ガスの削減に向けた取組が早急に必要とされている。</p> <p>【カーボン・オフセット商品等提供主体の削減努力】 2006年6月に横浜市役所の全組織でISO14001の認証を取得し、2008年度は2006年度比でごみ排出量を約33%削減（市庁舎及び18区庁舎）、温室効果ガス排出量を約13%削減した。2009年3月にISO14001の認証を返上し、2010年4月からは自己適合宣言に基づいた運用を行っている。 横浜市の事務所等でこまめに電気を消して待機電力の削減に努めたり、市内に風力発電（ハマウイング）を設置するなど、多岐に渡る排出量削減の取組を行っている。 横浜市では、市の基本構想、中期計画、基本方針すべてにおいて環境問題を重点問題のひとつとして市政運営を行っており、毎年、「横浜の環境」</p>

情報公開	<p>(横浜市環境年次報告書)として公表している。</p> <p>【消費者(参加者)の削減努力の促進に関する情報】 横浜市では、家庭における温室効果ガス削減が重要視されるなか、日常生活で誰もが気軽に参加できる“身近なエコ活動”の輪を広げていくことを目指し、平成22年3月に新キャンペーン「Yokohama エコ活。～あなたの毎日に、エコをプラスしよう。～」を開始し、市民向けの普及啓発を推進している。また、横浜市では、平成22年度のごみ排出量を平成13年度に対し30%削減する「横浜G30プラン」の目標を立て、市民・市内事業者と一緒にごみの減量・リサイクルを進めている。</p> <p>【オフセットの対象とする活動、期間、人数、距離等】 APEC 横浜開催の期間中(2010年11月7～14日)の会議場(パシフィコ横浜)と会議場周辺のホテルでの電力・ガス・地域熱供給(蒸気・冷水)・水道の使用に伴うCO2排出量をオフセットの対象とする。</p> <p>【対象とする活動に伴う排出量とオフセット量】 対象とする活動に伴う排出量： 616 t-CO2 オフセット量： 777 t-CO2</p> <p>【算定の根拠としたガイドライン名または算定式等】 ①電力： 環境省 報道発表資料 「平成21年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表について(お知らせ)」 ②ガス： 東京ガス 「都市ガスのCO2排出係数」 ③地域熱供給(蒸気・冷水)： 環境省 「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(改正後)」 ④水道： 環境省 「カーボン・オフセットの対象活動から生じるGHG排出量の算定方法ガイドライン(ver.1.1)」、CFP 関連データ収集整備事業事務局 「カーボンフットプリント制度試行事業用CO2換算量データベース(暫定版) ver.2.01(エクセル版)」</p> <p>【クレジットの種類】 京都メカニズムクレジット(CER)</p> <p>【クレジットの認証プログラム(制度)名】 クリーン開発メカニズム(CDM)</p>
------	---

<p>情報公開</p>	<p>【クレジットの調達状況】</p> <p>(1)「はまっ子どうし The Water」の販売本数に応じたオフセット分 2011年2月下旬に無効化予定</p> <p>(2)「環境絵日記」の応募作品数に応じたオフセット分 2011年1月27日に無効化済</p> <p>【クレジットの無効化方法】</p> <p>(1)「はまっ子どうし The Water」の販売本数に応じたオフセット分 「はまっ子どうし The Water」の販売本数に応じたクレジットの無効化については、「はまっ子どうし The Water」の購入者に代わり、JICAが所有するCERを直接、日本政府の償却口座に移転する。</p> <p>(2)「環境絵日記」の応募作品数に応じたオフセット分 「環境絵日記」の応募作品数に応じたクレジットの無効化については、「環境絵日記」の応募者に代わり、株式会社リサイクルワンが所有するCERを直接、日本政府の償却口座に移転する。</p> <p>【クレジット調達期限・通知方法】</p> <p>(1)「はまっ子どうし The Water」の販売本数に応じたオフセット分 CERの無効化手続きが完了した時点で、JICAから国別登録簿の取引履歴に関する書類等により通知を受ける。(2011年2月下旬に調達予定)</p> <p>(2)「環境絵日記」の応募作品数に応じたオフセット分 CERの無効化手続きが完了した時点で、株式会社リサイクルワンからカーボン・オフセット証書および国別登録簿の取引履歴に関する書類等により通知を受けている。(2011年1月27日に調達)</p> <p>【プロジェクト名】</p> <p>NorthWind Bangui 湾プロジェクト (国連 CDM 理事会登録番号：0453)</p> <p>【プロジェクト実施国・実施地域】</p> <p>フィリピン・Bangui 湾</p> <p>【プロジェクトタイプ】</p> <p>風力発電</p> <p>【プロジェクト概要】</p> <p>本プロジェクトはフィリピン北部の Bangui 湾に設置されている 33MW の風力発電を行うことで年間約 5.7 万トンの CO2 を削減している。世界銀行プロトタイプ・カーボン・ファンド (PCF) を通じて参加する CDM プロジェクトのひとつである。PCF は、日本企業からの出資者をはじめとし、世界 10 カ国より 23 の政府、政府関係機関や民間企業が出資して、2000 年 1 月に世界で初めて設立されたカーボンファンド (温暖化ガス削減基金) である。PCF の資金運用は世界銀行に委託され、開発途上国等において温室効果ガスの削減とともに持続的開発に役立つプロジェクトの実</p>
-------------	---

情報公開	<p>施のために利用されている。</p> <p>【プロジェクト期間】 2005年～2012年（クレジット発行期間）</p> <p>【プロジェクトの排出削減・吸収量】 推定削減総量：397,516 t-CO₂ 年平均削減量：56,788 t-CO₂</p> <p>【商品・サービス（チケット等）当たりの販売価格】 「はまっ子どもし The Water」の販売価格は各店舗によって異なります。</p> <p>【消費者等のオフセットに関する価格負担の有無】 消費者の価格負担は無し （「はまっ子どもし The Water」の販売については、売上の一部でクレジット調達費用を負担。「環境絵日記」の応募については、環境絵日記実行委員会がクレジット調達費用を負担。）</p> <p>【カーボン・オフセットの主体】 横浜市オフィシャル・ウォーター「はまっ子どもし The Water」の購入者、及び、横浜市内の小学生等による「環境絵日記」の応募者 なお、算定範囲、算定方法、削減努力、排出量の埋め合わせ等の内容について、当該活動期間開始時点から認証決定時までと認証決定時以降で変更がない。</p>
------	--